

1 グループ研修

①-1 幼児教育の発信と幼小接続の推進

1 協議内容

(1) 幼小接続の推進について

- ・ 小学校との合同運動会を開催することができた。お互いが無理なく連携を続けていけるように、競技内容等の共通理解を図っていくことが今後必要である。
- ・ 小学校の授業を参観したり、学習発表会のリハーサルを見学に行ったりするなど子供同士の交流だけでなく、幼小が接続できるような工夫をしている。

(2) 幼児教育の発信について

- ・ 自治会主催の納涼祭に参加したり、敬老会に参加したりするなど、地域の方と交流をしていくことが発信にもつながる。
- ・ ブログ内容の工夫を心掛けているが、新しいガイドラインで作成をするとこれまでのように子供の写真で保育の様子を伝えることが難しくなると感じている。

(3) 成果・次年度に向けて

- ・ with コロナの段階に入り、少しずつ小学生と交流をすることができるようになってきている。コロナ前に比べ行事の考え方や実施方法も変化してきているので、交流の仕方や発信の仕方も新しい視点で考える必要がある。

①-2 幼児教育の発信と幼小接続の推進

1 協議内容

(1) 幼小接続における各園での具体的な取組について

- ・ 1年生の授業参観及び生活科交流、給食参観を行った。
- ・ 小学校の運動会を見学したり、幼稚園の行事に児童が参加したりした。
- ・ 休み時間に、小学校の校庭で遊んだ。その際、児童と自然な関わりの中で、一緒に遊ぶことができた。
- ・ 夏の合同研修において、キャリア教育全体計画、スタートカリキュラムを取り入れての研修を幼小で行った。市立幼稚園のよさや幼小のつながりを意識した取組を、どのように発信していくとよいのかを考え、実践していきたい。

(2) 成果と今後の課題について

- ・ 幼小の連携において、情報を共有し、同じ意識を持つことが大切であることがわかった。そのためにも、幼稚園の方から情報を提供したり、学びの連続性としての幼児教育について発信したりしていくことが重要である。
- ・ 合同研修においては、教師間の情報交換で終わってしまうところが多かった。まずは、それぞれの園内、校内研修において、互いの理解を深めていくところから始めていく。
- ・ 交流活動においては、それぞれのねらいを共有することが大切である。また、来年度に向け、小学校の年間計画に入れてもらえるように働きかけていきたい。

①-3 幼児教育の発信と幼小接続の推進

1 協議内容

(1) 幼小連携に関する今年度の各園の取組

- ・ 小学校の児童と園外保育に出掛けたり、夏休みに小学校のプールで児童と遊んだりした。また、小学校の授業や給食の様子を参観した。
- ・ 小学校の職員に、子供に向けて、学校の様子の話や模擬授業を行っていただいた。
- ・ 幼稚園の教諭と卒園後入園を予定している小学校の教諭（1年生の学年主任や生活科主任等）が一同に会し、アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラムの必要性や作成方法等について理解を深め実践するための研修会を開催する。

(2) 幼小連携の推進に向けて求められること

- ・ 「第2期浜松市子ども・若者支援プラン」に示されているように、幼児教育・保育課が、市として幼小連携が推進されるよう、小学校と幼稚園に積極的に働き掛ける必要性を感じる。
- ・ 小学校の校長に、幼小連携の必要性を理解していただくことが大きな課題である。

② つながりのある発達支援教育の推進

1 協議内容

(1) 各園の現状と課題について

- ・ 第1言語が日本語以外の保護者や子供との意思疎通が難しい。
- ・ 支援を必要とする園児が参加しやすい生活発表会（園行事）のあり方について考えている。
- ・ 感情が高ぶると、突発的な行動をする子の対応に苦慮している。

(2) 増加する外国籍の子供に対する支援について

- ・ 園児や保護者と意思疎通をするために翻訳機（ポケトーク）の活用ができるとよい。
- ・ 母国語と日本語、そしてその意味する絵カードなどを使って園児と意思疎通を図るなど、増加する外国籍の子供に対する支援方法について話し合った。

(3) 支援を必要とする園児の対応について

- ・ 行事を行う前の事前の準備や支援方法について実践例を出し合った。
- ・ 医療機関との連携や支援の共有方法について話し合った。
- ・ はまずくファイルの効果的な活用方法について話し合った。

③ 危機管理能力の向上

1 協議内容

(1) 安全面で具体的に配慮した内容について

- ・ 園内の危険個所（遊具、園庭含む）についての具体的対策、情報交換をした。
- ・ 画びょうを安全に利用する方法の模索と、画びょうの代替品についての情報交換をした。

(2) 事故防止及び事故発生時の対応について

- ・ 園児が怪我をした時の対応や記録、聞き取り表の作成や活用方法について話し合った。
- ・ 各園で作成した園外保育マニュアル、人数確認票等を持ち寄った情報交換をした。

(3) 職員の危機管理意識を高めるための具体的な取組について

- ・ キッズサポーターや園務員を含めた危機管理マニュアルの共通理解の必要性について話し合った。
- ・ 目視だけでなく声に出して周知する重要性の確認をした。
- ・ 災害に対応する力の必要性や、備えておく役立つものについて情報交換をした。

(4) 今後の行事における新型コロナウイルス感染症対応について

- ・ その時の状況に応じた行事の実施方法について話し合った。
- ・ 異年齢活動のもち方の工夫について話し合った。

④-1 小規模園における幼児教育の充実に向けた園経営の工夫

1 協議内容

(1) 「浜松市立幼稚園 少人数保育カリキュラム」の活用について

- ・ 各年齢の発達をおさえて異年齢保育を実践していくには、担任の力量が求められるため、該当職員の参考資料として必要である。
- ・ 学年毎の人数分布や男女比によって、各園の課題や支援方法、行事の捉え方等が違い、同じ少人数でも年度ごとに実態が異なる。そのため、実践を基に「少人数保育カリキュラム」への追記や見直しをして、常に更新していくとよい。

(2) 園長としての役割について

- ・ 職員の困り感を共有し、園児の人数構成が似ている園同士での公開保育や交流保育等、コロナ禍でも実施できる研修を計画し、職員の学び合いの機会を作っていくとよい。
- ・ 地域回覧やブログで日々の保育実践から子供の育ちや学び等を発信したり、未就園親子の園開放の仕方を工夫したりして、自園のよさを感じて選んでくれる保護者を増やす努力を続ける。

④-2 小規模園における幼児教育の充実に向けた園経営の工夫

1 協議内容

(1) 行事への取組について

- ・ 複式学級では運動会や発表会など、年長児だけでなく年中児の成長も大きい。それぞれの発達段階をおさえ、その時期に育てたいことを明確にしなが、園全体で取組を工夫していく。

(2) 交流保育について

- ・ 自分から遊びに入っていく経験や大勢だと楽しいという経験をすることにより、子供たちの成長が見られた。これからも、子供たちの育ちにつながる交流の場を保障していきたい。
- ・ 交流保育に至るまでの計画や立案・準備が大変であるが、計画・反省を繰り返すことで、保育が積み重ねられ、今後に生かされていく。

④-3 小規模園における幼児教育の充実に向けた園経営の工夫

1 協議内容

(1) 各園の現状や取組状況

- ・ 少人数化を見据え、指導計画の見直しに取り組んでいる。
- ・ 複式園ではないが、複式のように異学年合同の保育を試み、よい成果を得ている。
- ・ 異学年相互の関わりを重視した指導計画に取り組んでいる。
- ・ 年度によってクラスの構成が違ってくるので、指導計画作成の難しさを感じている園もある。
- ・ 複式へ移行した時に、保護者に丁寧に説明をしたことで、複式のよさが実感されている。
- ・ 少人数の課題解決を目指し、多くの人との交流を心掛けている。(他園、地域、小中学生など)

(2) 課題解決への方向性

- ・ 小規模園では「周りの大人が手を掛けすぎてしまう」という問題がある。この点を教師側が十分意識し、「適度な困難場面の設定」と「見守って育てる姿勢」を忘れないようにすれば、子供たちの主体性も育ち、少人数のよさが一層発揮されるようになるだろう。
- ・ 小規模園では、担任するクラス以外の子供にも目を向けやすく、全ての園児を各職員の協力で豊かに育てていける。今後も教師の視野を広げる努力や意識改革を図っていきたい。